

講演要旨(レジュメ)

平成 27 年 8 月 13 日

社高#27 卒 三明

1 前言(趣旨)

自衛隊が「わが国の平和と国民の生命と財産を守るために、日頃から国民とともにある(陸上)自衛隊」として、自衛隊の活動に対して理解と協力をお願いすることはOBとしての責務。その為、自衛隊の概要を紹介して理解の礎とするとともに「忘れない3.11～東日本大震災」での災害派遣活動の一端を紹介して改めて被災された方への哀悼の意をこめ、市民一人一人の防災意識の向上につながれば望外の喜びです。

2 本論

(1) 導入編：自衛隊の概要

① 任務(自衛隊法第3条)の確認

「自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対し我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たるものとする。(以下-略-)

② 組織

ア 三自衛隊の特性(以下の様に揶揄されています)

- ・陸上自衛隊⇒「用意周到・頑迷固陋」
- ・海上自衛隊⇒「伝統墨守・唯我独尊」
- ・航空自衛隊⇒「勇猛果敢・支離滅裂」

上記各三自衛隊の特性を統合した組織として、

●統合幕僚監部があります。【陸+海+空=統合部隊(JTF)の編成】

イ 陸上自衛隊に特化して説明

- ・陸上幕僚監部(陸上総隊：報道されております新たな組織)＝陸上最高司令部
>5個の方面(総監部)>師・旅団(司令部)>連群長>大隊
- ・職種(職域)等

普通科、特科(野戦・高射)、機甲科、施設科、航空科、通信科、武器科、
需品科、輸送科、化学科、警務科、会計科、衛生科、情報科

音楽科(陸(中部方面隊)：鶴(つぐみ)真衣、海(東京音楽隊)：三宅由佳莉)

※自衛隊が自己完結できる組織といわれる所以は、戦闘する組織からそれを支援する組織まですべて隊員が行っており、士気高揚のための音楽隊(最近は女性ボーカルも自前で採用されています)も含め、衣食住その他の機能が総合的に編成されているからです。もちろんそれぞれの職種に必要な隊員の技術(特技)は独自に育成しており、人材育成が最も重要であります。これらを総合勘案し自衛隊の日々の隊務は教育訓練です。隊内では「教育訓練が隊務の主軸」

とも言われています。

・階級

以下のような階級構成ですが、陸であれば陸将、海であれば海将、空であれば空将というようにそれぞれの階級の前に陸・海・空を付して呼ぶのが正式です。陸に例えれば、陸将、陸佐、陸尉、陸曹、陸士にそれぞれ細分化して呼称します。

将官：将>将補 etc.陸将、陸将補 etc.=「例えば」の略語

佐官：1佐(一)、(二)、(三)>2佐>3佐>

etc.1等陸佐、2等陸佐、3等陸佐

尉官：1尉>2尉>3尉>准尉

etc.1等陸尉、2等陸尉、3等陸尉、准陸尉(以下省略)

曹士：曹長>1曹>2曹>3曹>士長>1士>2士

- (2) 活動編：自衛隊の東日本大震災時の災害派遣活動等 P.P.=パワーポイントの意
(別添 P.P.資料の写真を主体に説明します。以下、項目のみ列挙します。)

① 自衛隊の主たる活動

ア 被災者の救助、人員・物資の輸送、給水・給食、入浴、医療等支援、道路啓開、瓦礫除去 等

イ 原子力災害派遣

② その他

ア 自衛隊員への励まし(あったか〜い話)

イ 裏話(隊員の犠牲、家族のやり取り他)

- (3) 自衛隊(戦車部隊)の訓練の一端を紹介

北海道大演習場において毎年実施される「方面(師団)射撃競技会」の戦車小隊射撃を紹介。北海道に駐屯する全戦車部隊から40個以上の小隊が参加し、射撃能力の優劣を競うものであり、戦車部隊にとって、本競技会への意気込みは並々ならぬものがあります。

3 結言

自衛隊は、災害派遣のために日夜厳しい訓練をしているのではないのです。国の防衛という崇高かつ高邁な使命達成のために、日々黙々と訓練しているのであり、この日々の厳しい訓練があればこそ、東日本大震災のような未曾有の災害に対してもいかになくその能力を発揮して任務達成できたというのが当時の共通の認識でした。

本講演を通じて、少しでも自衛隊への理解と協力促進の資となれば幸甚です。

以上

注) 別添 P.P.資料は、防衛省・陸上自衛隊HPのほか、震災後の各講演資料等既に公開された資料を基に作成した他、特に個人の識別につながる写真には目線を付した。